

広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

■コメント

1 新型コロナウイルス感染症

第52週に14,881件の報告があり、増加が続いています。全国でも新規感染者数は高い水準が続いており、12月29日発表の死亡者数は420人と、これまでで最も多くなりました。基本的な感染予防対策に加えて、体調不良時は外出を控えるなど、一人一人が対策を徹底することが大切です。

2 インフルエンザ

定点当たり0.62人と増加傾向です。協力医療機関(市内2か所)の迅速診断キットの結果は、全てA型でした。マスク着用、手洗い、換気など、感染予防対策を徹底しましょう。

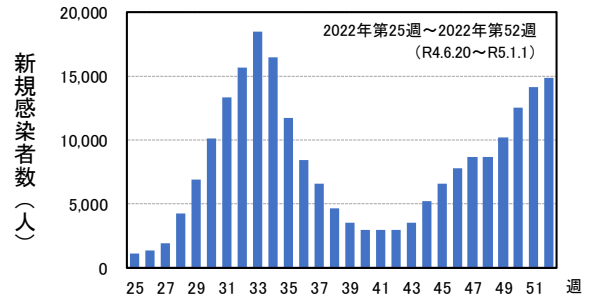
3 梅毒

2022年の累計は317件(速報値)と大きく増加しました。(次ページ参照)

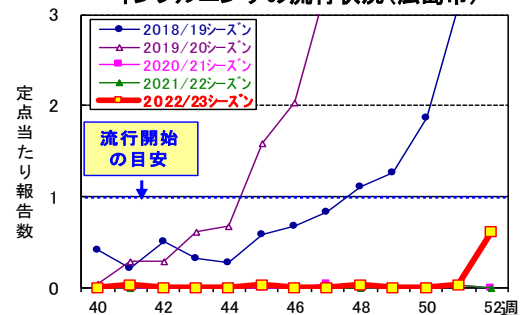
4 感染性胃腸炎

冬季はノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が多くなります。手洗いや便・吐物の適切な処理など、感染予防対策を徹底しましょう。

新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移(広島市)



インフルエンザの流行状況(広島市)



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	21	0.62	8.53		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.07	
小児科	咽頭結膜熱	4	0.19	0.38		眼科	RSウイルス感染症	1	0.05	0.28	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	0.14	1.41		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
	感染性胃腸炎	149	7.10	7.30		眼科	流行性角結膜炎	-	-	0.38	
	水痘	1	0.05	0.40		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	2	0.10	0.62		基幹	無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	1	0.05	0.22		基幹	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.09	
	突発性発しん	1	0.05	0.26		基幹	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	5	0.24	0.21		基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.03	

急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↘	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	34
小児科定点数	21
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

今週(第52週)は、年末年始の休診の影響で、報告数が少なくなっている可能性があり、前週(第51週)と適正な比較ができないことから、発生記号は表示していません。

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	133	20歳代、70歳代
5	梅毒	4	317	20歳代・2人、40歳代・1人、50歳代・1人

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(感染性胃腸炎(ロタウイルス))
報告数	広島市	第48週	1	9	6	103	2	2	-	3	3	2	3	-	-	-	-	-	-
		第49週	-	-	4	129	1	-	-	1	5	2	1	-	2	-	1	-	-
		第50週	-	2	20	136	1	1	1	5	6	-	-	2	-	-	-	-	-
		第51週	1	3	9	176	1	1	-	2	2	-	2	-	1	-	-	-	-
		第52週	21	4	3	149	1	2	1	1	5	-	1	-	-	-	-	-	-
定点当たり	広島市	第48週	0.03	0.43	0.29	4.90	0.10	0.10	-	0.14	0.14	0.10	0.14	-	-	-	-	-	-
		第49週	-	-	0.19	6.14	0.05	-	-	0.05	0.24	0.10	0.05	-	0.25	-	0.17	-	-
		第50週	-	0.10	0.95	6.48	0.05	0.05	0.05	0.24	0.29	-	-	0.25	-	-	-	-	-
		第51週	0.03	0.14	0.43	8.38	0.05	0.05	-	0.10	0.10	-	0.10	-	0.13	-	-	-	-
		第52週	0.62	0.19	0.14	7.10	0.05	0.10	0.05	0.05	0.24	-	0.05	-	-	-	-	-	-
全国		第50週	0.53	0.16	0.42	4.96	0.11	0.32	0.01	0.24	0.13	0.04	0.48	0.02	0.18	0.01	0.02	0.03	-
		第51週	1.24	0.19	0.37	5.60	0.10	0.29	0.01	0.22	0.10	0.03	0.40	0.02	0.24	0.01	0.01	0.03	-

■ 広島市における新型コロナウイルス感染症の発生状況(確定日で集計)

【第52週(12月26日～1月1日)】

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	合計
1,550	2,016	2,057	2,210	2,565	1,926	999	705	847	6	14,881

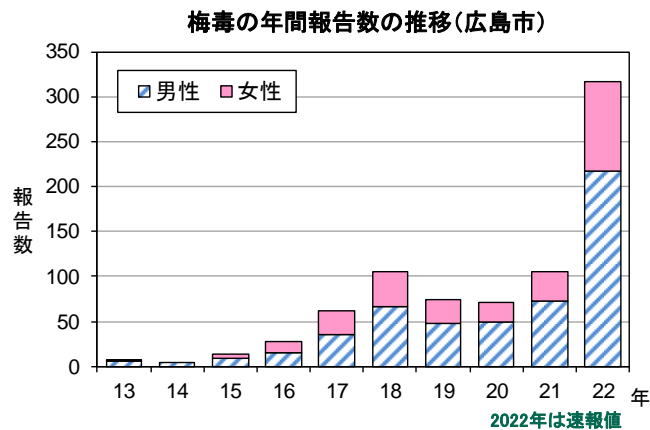
【累計報告数(1月1日)現在】 ※2020年からの累計報告数です。

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	合計
42,356	46,627	46,110	48,105	50,391	34,099	18,609	13,809	12,397	391	312,894

新型コロナウイルス感染症の相談窓口
コールセンター(積極ガードダイヤル) TEL:082-241-4566
全日24時間対応

* 新型コロナウイルス感染症に関する最新の発生状況、相談窓口等については、広島市ホームページ「新型コロナウイルス感染症に関する情報(<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/korona/>)」からご確認ください。

【参考】広島市における梅毒の発生動向について



【参考】梅毒～梅毒(ばいどく)が拡大しています～(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/syphilis.html

2022年の累計報告数は317件(速報値)と、1999年の感染症法施行以降の最多であった105件(2018年、2021年)の3倍を超えました。年齢別では、男性は40代、女性は20代が多い傾向です。先天梅毒は2016年以降報告がありませんでしたが、2022年は2件の報告がありました。

梅毒は、主に性的接触により、口や性器などの粘膜や皮膚から感染します。早期の治療で完治しますが、治療をしないまま放置すると、心臓や血管、脳などの臓器に病変が生じ、時には死に至ることもあります。

また、妊娠している人が感染すると、死産や早産になったり、生まれてくる子どもの神経や骨などに異常をきたす先天梅毒になることがありますので、感染予防と早期発見・早期治療が大切です。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp